

福岡県労連

KEN & ROREN

2022
5月号
No.185

発行所 福岡県労働組合総連合
〒812-0016 福岡市博多区博多駅南
1-9-8 ケイ・アイビル2F
☎092-433-1833 FAX092-433-1822
編集発行
福岡県労働組合総連合
福岡県労連 検索



〔定価〕
1部10円

みんなで変える未来

第93回 メーデー

「第93回メーデー」は県内6か所（集会5か所・学習会1か所）で開催されました。各地で「ロシアはウクライナから撤退を」「憲法を守れ」「生活を守れ」の声を上げました。



30団体約500名で行ったパレード



北九州統一メーデー



大牟田 築町公園にて集会実施（参加者約200名）。集会では矢野実行委員長より8時間労働を勝ち取ったことを祝ったのがメーデーの起源であること、そして「8時間労働の歌」を紹介した。

〔筑豊〕

直方市中央公民館を会場に集会の代わりに「憲法学習会」を開催（参加者約50名）。

〔大牟田〕



〔久留米〕

小頭町公園で集会の後、西鉄久留米駅前でスタンディング（参加者約100名）。色とりどりのメッセージボードでアピールしました。

〔東部〕

古賀市役所駐車場を会場に集会を開催（参加者約100名）。



いのち、暮らし、平和を守る政治の実現を！

〔福岡・北九州〕

福岡中央統一メーデーは福岡市天神の警固公園で開催されました。

開会にあたり山下実行委員長より、「コロナの感染拡大で格差が拡大している。さらにロシアのウクライナ侵攻による物価上昇など国民生活は危機に陥っている。いまこそ賃金的大幅な引き上げや消費税の廃止など国民生活を本気で守る政策が必要だが、政府はするべきことはせずにしなくてもいい憲法改悪を進めようとしている。團結して憲法改悪を許さず、平和を守ろう」と挨拶されました。来賓あいさつでは知事の代理として労働政策課上村課長、日本共産党田村衆議院議員、

総がかり実行委員会青柳代表より挨拶がありました。その後のデコレーション・プラカード審査では4組がエントリーして色とりどりのプラカードの披露とアピールがありました。審査の結果、劇団風の子労組が最優秀賞に輝きました。

距離を宣伝カーのコールに合わせハリセンを叩いて鳴らしながら歩きました。参加者は30団体約500名でした。

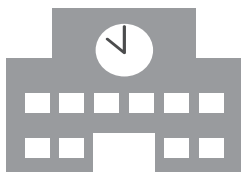
最後に福岡地区春闘共闘米地議長より「私たちは微力だが無力ではない。あきらめたら何も変わらない。團結して社会を変えよう」と力強い挨拶がありました。

来賓あいさつでは北九州市民の会、平和をあきらめないネット、日本共産党、社民党から挨拶がありました。その後の各団体からの発言では北九州争議団共闘会議・北九州市職労、辺野古土砂ストップ北九州、福建労北九州支部など8団体から訴えがありました。デモ行進は感染対策のため行いませんでした。

シリーズ「憲法をくらしに生かす社会へ」

学校の中に人権を取り戻す〈前編〉

弁護士 後藤 富和



今回の特集記事は前号で語られた憲法の理念の実践として、「個人を大切にする社会とは何か」というテーマで様々な支援活動をされている後藤弁護士に寄稿いただきました。個人を抑圧する管理教育の実態、そこから教師・保護者に人権感覚を取り戻させることで学校現場を改革された経験を語っていただきました。前後編の2部構成となっています。

2017年4月、福岡市立警固中学校のPTA会長となり驚いた。

同じ服、同じ髪型、同じ行動、大量生産のロボットのような。黙々掃除、無言給食、男子は前・女子は後、ツーブロック・ポニーテール禁止、眉毛を整えてはならない、靴下も靴も下着も白。学校以外の場所では耳にすることがない教師の罵声。

こんなストレスフルな環境に子どもたちはさらされている。

6月、セーラー服の着用を強いられた中学時代を「地獄だった」と訴える高校生の話を聞いた。数日後、制服のせいで辛い思いをしている生徒がいることを校長に相談した。校長はあっさりと



後藤 富和 弁護士



ジェンダーフリー制服

「じゃあ、制服変えれば」と答えた。ここから、校長とPTA会長の二人三脚の改革が始まった。

問題意識を共有する保護者、教師、LGBTアライ、市議会議員、弁護士、新聞記者などで福岡市の制服を考える会を結成し、情報収集と各所に対する働きかけを行った。

福岡市全体でジェンダーフリー標準服の導入を目指すも壁は厚く、警固中1校だけでも導入を目指すことにした。

まずは、PTAで、LGBTQ+の当事者や保護者、支援者を招いて徹底的に学習をした。そこに、地域の方や議員

にも参加してもらった。

生徒は本音を語れない

ジェンダーフリー標準服の導入に向けて、警固中学校では標準服検討委員会を立ち上げた。生徒代表も委員として入った。ただ、ここで感じたのは、生徒たちが自分たちの本音を語ることができなくなっているということ。意見を求め

ても、生徒たちは先生が要求している答えを予想してそれを自分の意見として言う癖が染み付いている。それは、これまでの学校生活の中で「何でも言ってみろ」と言われて、自分の本音を言ったところ「ふざけるな」と教師から一喝された経験があるから。それを経験した生徒は二度と本音を言わなくなる。

生徒が自由に発言できる環境、つまり生徒の表現の自由を大事にしてきたか、その取り組みが大人たちに問われている。

ジェンダーフリーは進んだものの性的マイノリティへの配慮だけでなく、外国ル

ツの子どもたちや、文化の違い、感覚過敏への対応など少数派の人権に配慮した標準服を生徒とともに作り上げていった。

ジェンダーフリー標準服導入に先立ち、入学予定の小学6年生と保護者に説明を行った。校長は子どもたちに向けて「あなたが活動しやすいと思う服を、あなたが選んで良いんですからね」と呼びかけた。子どもたちからは歓声が起こった。しかし、その直後、生徒指導の教師が「男子は選べんからな」と一喝した。予定にない行動だった。この教師は「何を学んできたのか、私は怒りに震えた。」

最低賃金審議会のあり方などについて 福岡労働局と懇談



要請書を手渡す山下議長(左)

福岡県労連は4月27日、福岡地方最低賃金審議会および福岡労働局に対して、「最賃1,500円に向けた審議会」の審議会での意見陳述「審議会の公開」「委員の公正任命」などを求めている。要請書を提出し、懇談しました。

最低賃金審議会は「原則公開」とされていますが、金額審議がされる専門部会是非公開となっており、より透明性を確保するために全面公開することを求めました。福岡労働局は、「非公開は

会長の権限であり、要請を受けて異議申し出の審議会については昨年から公開とした。要請は会長に伝え、公開について努力はする」と答えました。また、審議会での意見陳述については、昨年実施している他県状況を調べるとしていましたが、「限られた時間の中で結論を出さなければならず、現状では難しいのではないか」としました。

福岡労働局は、この間取り組んでいる地方議会の最賃意見書採択について、「審議会に与える影響は大きい」と受け止めており、県労連では、引き続き要請項目実現の取り組みを強め、地区労連と協力



六本松交差点から裁判所まで公正判決を訴えながら行進する年金裁判原告団

年金減額処分取消請求裁判 控訴棄却の不当判決

4月20日、福岡高裁において福岡佐賀県内の年金受給者(原告149名)が国を相手取り提訴した年金減額処分取消請求裁判について、控訴棄却の不当判決が言い渡されました。

判決文はわずか9ページしかありませんでした。福岡高裁の審理では毎回の口頭弁論において年金受給者自ら意見陳述を行い、厳しい生活実態を明らかにしてきました。高齢者の年金額は2015年の提訴時ですら国民の最低限度の生

活を保障する水準に遥かに満たない額だったのが、自公政権の10年でさらに実質的価値は67%減少しています。また長引くコロナ禍により非正規労働に従事して不十分な年金を補っていた高齢者の多くが雇止め等で職を失い、その経済的ひつ迫度合いは深刻さを増しています。しかし福岡高裁の裁判官はそのような実態を直視することなく、国の主張をなぞるかのような「審判決を追認しました。この福岡高裁の不当判決に対し、原告は直ちに最高裁に上告を行いました。引き続き支援をよろしくお願い致します。

編集 後記

2022年夏の参議院選挙が目前に迫ってきました。5月現在、ここ福岡選挙区では3つの議席に対して10人もの候補者が名乗りを上げています。選挙は要求実現の大きなチャンスです。私たち労働組合の掲げる要求を改めて意識しながら各候補の主張をしっかりと読み取り、思いを同じにする候補を見極めていくことが大切です。このチャンスを最大限に生かすためにもみんなで声をかけあって投票に行きましょう! (げ)